

2025 年 4 月 18 日

【SUPER FORMULA(全日本スーパーフォーミュラ選手権) 第3戦・第4戦 /モビリティリゾートもてぎ】
大会直前情報

デグラデーションのコントロールが勝負を左右する

モータースポーツでタイヤにまつわるキーワードとして頻繁に出てくるのが「デグラデーション」です。

デグラデーションとは、車両が走り続けることで結果として生じるタイヤパフォーマンスの「低下」を指します。その低下は、タイヤに使用しているゴムの特性として、繰り返し力を加えられて変形した時に物質の変化がしやすいかどうかだけでなく、温度上昇による熱グレや、ドライバーのタイヤの使用状況、サーキットの路面特性によるタイヤの摩耗の進行具合といったことでもタイヤ性能は低下していきます。



性能低下がよく分かるのはラップタイムです。「タイヤの性能が下がるとタイムが落ちる」という直接的な関係ではなく、タイヤ性能が下がることでドライバーは運転時にタイヤに重い負荷をかけることができず、いわゆる「全開走行」ができなくなってしまうため必然的にタイムが落ちてしまうのです。

タイヤの性能低下を、サーキットの路面特性という観点で見た場合には、路面の粗さが関係してきます。路面がささくれ立っているような、骨材が見えるような状況はタイヤに対する攻撃性が高く、表面が滑らかであればその攻撃性は低いいため性能低下を遅らせます。開幕戦の舞台となった鈴鹿サーキットは、シーズンオフに東コースの路面が再舗装されました。そのため表面が滑らかになり、結果としてタイヤへの攻撃性が下がり、大きな性能低下は見られなかったと考えられます。

開幕戦を温度上昇の観点で見ると、3月の開催で気温、路面温度ともにそれほど高くなかったことから、デグラデーションが大きく出なかったということも考えられます。季節が進み、夏の暑い時期のレースではデグラデーションは今と比較して大きく表れるため、これをいかに抑えるかはドライバーの技量や車両セッティングにかかってきます。

熱ダレというポイントに絞ってみると、走ることでタイヤに熱が加わり、温度が上がってくるにつれてゴムが溶け、粘着性が上がってくるためグリップ性能が上がります。しかし、一定の温度を超えるといわゆる「タイヤのオイシイ領域」を超えてしまい、タイヤの粘着性が下がってしまいます。そのため、スピードは落ちてしまいタイムが下がりますが、タイムが下がることで走行による温度上昇は抑えられるので、結果的にタイヤは冷却され、熱による性能低下は解消されます。すると、ラップタイムは再び上がってくることになります。こういったことをうまくコントロールして、レースでいち早くゴールするためにペース配分していくのがドライバーです。タイヤの性能低下を理解したうえで、「タイヤを温存する」「全開で行く」といった走り方を場面に応じて判断していきます。

今大会の舞台となるモビリティリゾートもてぎは、直角や鋭角の様に曲がるコーナーが複数あり、ブレーキに厳しいと評されるコースです。ブレーキを使うことでその熱をタイヤが受け、タイヤの温度上昇につながるため、熱ダレによるデグラデーションの影響を考慮する必要があります。

ワンメイクタイヤで争うスーパーフォーミュラでは、タイヤの特性を理解しうまく使うことが勝利への鍵の一つになります。ラップタイムの推移から、「タイヤをどのように使おうとしているのか」「この先の展開をどう想定しているのか」を想像しながら見るのも、スーパーフォーミュラの楽しみ方の一つになるかもしれません。

